

アバスチン+パクリタキセル療法

		Day				
薬剤名	用法用量	1	8	15	22	28
イリノテカン (CPT-11)	150mg/m ² 点滴静注 (90分)	↓		↓		
ゲムシタビン (GEM)	1000mg/m ² 点滴静注 (30分)	↓		↓		

4週ごとに PD (憎悪) になるまで

【適応】

非小細胞肺癌、2次治療以降。

【レジメンポイント】

<イリノテカン>

高度の下痢が生じる可能性があるため、発現時には適切に止瀉剤を使用する。以下の毒性が15日目に認められた場合、15日目の投与は1週間延期し、1週間後にこれの回復が認められた場合、イリノテカンの投与量を125mg/m²に減量し投与する。その後は2週間隔投与を続ける。(1週間投与延期しても改善しない場合は中止とする。)

- ①投与予定日に、WBC<3000/mm³およびPlt<50,000/mm³の場合
- ②投与予定日に、Grade1以上の下痢が出現している場合
- ③投与予定日に、38℃以上の発熱が出現している場合
- ④投与予定日に、PS3となった場合
- ⑤その他、主治医が不相当と判断した場合

投与日までに以下の副作用が出現した場合は、イリノテカンの投与量を125mg/m²に減量し、次回の投与を行う。ただし、減量しても以下の副作用が出現した場合は、投与中止とする。

- ①38℃以上の発熱を伴うGrade3以上の白血球減少
- ②好中球減少：Grade4が3日以上継続
- ③血小板減少：Grade4
- ④神経障害：Grade2が発現した回復した場合 (Grade3以上の場合は投与中止)
- ⑤口内炎：Grade3以上が発現した場合
- ⑥肝障害：Grade3が発現した場合
- ⑦下痢：Grade3以上が発現した場合

【慎重投与・禁忌】

重篤な感染症 (発熱) およびその他のコントロールされていない重篤な合併症 (心疾患、肺線維症/間質性肺炎、出血など) を有する症例。処置を有する胸水、心嚢水または腹水貯留症例。薬剤過敏症の既往歴のある症例。下痢 (水様便)、腸管麻痺、腸閉塞のある症例。